

ITサービスの注目ベンダー2008

分析

ベンダー名：株式会社スキルスタンダード研究所

所在地：東京 日本

URL：<http://www.skills.jp>

分析：山野井 聡

注目の理由：スキルスタンダード研究所（以下、SSI）は、ユーザー企業やITベンダーのIT人材育成支援を専門とするコンサルティング・ファームである。国内においてIT人材教育・研修等のサービスが数多く存在する中で、同社の独自性は、「情報システムユーザスキル標準」（以下、UISS）や「ITスキル標準」（以下、ITSS）の啓蒙とITの現場への根付きを中心に据えたコンサルテーションを行っている点にある。UISSやITSSは、日本のIT人材の国際競争力強化を目的に経済産業省が推進しているガイドラインであり、IT関連業務のタスク、キャリア、スキルの成熟レベルに関して、きわめて網羅性・包括性の高いフレームワークと断言できる。SSIは、これらガイドラインの計画段階から導入支援の中核メンバーとして関与しており、国内で最も内実に精通した集団といえる。

こうしたガイドラインが抱えるジレンマは、「百科辞書」として精緻すぎるために、企業が導入の際に、どこにフォーカスすべきか、かえって困惑してしまうという点である。SSIの提供価値の一つは、このジレンマの克服にある。同社は、顧客の経営戦略やIT人材戦略の現状と方向性を理解し、UISSやITSSから顧客にとって真に必要なスキル要素を選択する形で、顧客が固有に目標とする「人材モデル」を提案する。さらに同社、顧客の現在の人材スキルレベルを棚卸しし、「目標人材モデル」とのギャップを可視化させ、そのギャップを埋めるための人材育成計画の立案・導入まで継続的に支援している。

企業経営に貢献する高度IT人材の獲得・育成は、日本企業のIT部門やITベンダーが直面している最重要課題の一つである。しかし現実には、体系的な人材育成ロードマップを敷き、実現に向け取り組んでいる企業は少ない。また、ITエンジニアという職能が、ともすれば「3K」等と揶揄・忌避され、潜在能力の高い人材を獲得しにくくなっているという意見が頻繁に聞かれる。さらに、昨今のインド等の海外の高度なIT人材輩出施策・政策と比較しても、人材の国際競争力や流動性という観点で、国内のIT人材像のあり方があらためて問われている。こうした状況の打開策は、まず「経営層や利用部門から尊敬されるITプロフェッショナルリズム」を、企業の組織文化として確立することである。SSIのサービスは、実効性のあるアプローチで、この実現に貢献しようという点で、注目に値する。

課題：SSIの課題は、事業の健全な成長のためのコンサルタントの確保・増強と考える。前述のように、IT人材育成ニーズは国内市場において顕在化しており、今後ますます需要は拡大するものと予想する。サービス品質を落とさずに、需給のギャップをどう埋めていくかが、同社の中長期的な課題と考える。

ガートナーの提言：IT人材育成の一歩として、ITスキルの可視化とフレームワークの策定を検討している企業のIT部門あるいはITベンダーの人材開発部門は、SSIに注目すべきである。

Gartner

©2008 Gartner, Inc. and/or its Affiliates. All Rights Reserved. Reproduction of this publication in any form without prior written permission is forbidden. The information contained herein has been obtained from sources believed to be reliable. Gartner disclaims all warranties as to the accuracy, completeness or adequacy of such information. Gartner shall have no liability for errors, omissions or inadequacies in the information contained herein or for interpretations thereof. The reader assumes sole responsibility for the selection of these materials to achieve its intended results. The opinions expressed herein are subject to change without notice.